

宿場町の記憶を刻む「旧酒蔵再生」の記録

左官工事会社が総元請として挑む、旧島崎酒造の屋根・外壁改修工事

(有)阿久津左官店

代表取締役 阿久津 一志

左官が「総元請」として背負う責任

栃木県大田原市佐久山。かつて奥州街道の宿場町として栄えたこの地に立つ築100年の「旧島崎酒造(屋号:日野屋)」の酒蔵再生において、阿久津左官店は「総元請」としてその全責任を担うこととなった。

長年の放置により、屋根瓦は崩れ、外壁の漆喰は広範囲にわたって剥落。一時は崩落の危険さえ指摘されていたこの歴史的遺構を、単なる「修理」ではなく、次世代へ繋ぐ「再生」へと導く。それは、左官という一専門工事業の枠を超え、建物全体の構造を見極め、瓦職人をはじめとする多工種を統括するマネジメント力が試される挑戦でもあった。2026年1月末、外装改修が完了を迎える今、職人集



▲旧島崎酒造の俯瞰図



▲倒壊の恐れがある為、事前にドローンで上空からの空撮及び測量調査を行い、過去に施工した寺社の漆喰工事、川越市文化財復元工事の経験をもとにお客様への具体的な提案からスタートした。



▲外壁の漆喰は広範囲にわたって剥落



▲外壁の穴からは雨水が浸入し満身創痍の状態



▲壁のひび割れ一つが構造に与える影響を読み解く



▲「雨仕舞」を完璧にするため屋根瓦職人との緊密な連携

団が元請けとして取り組んだ再生プロセスの記録を見ていただきたい。

構造の健全化を最優先とした全体設計

着工前、本建物はまさに満身創痍の状態であった。外壁の穴からは雨水が浸入し、内部の柱や梁を蝕んでいることは明白だった。総元請としての最初の仕事は、建物の「命」をどこまで残せるかの見極めである。

下野新聞等地元メディアの報道により地域の注目が集まる中、私たちはまず仮設足場を組み、屋根から基礎に至るまでの徹底的な調査を行った。阿久津左官店のホームページでも提唱している通り、伝統建築の再生は、現代の基準に照らし合わせた「強度」の再構築が不可欠である。左官職人の視点から、壁のひび割れ一つが構造に与える影響を読



▲工種間の隙間を埋める作業こそが、元請けとしての腕の見せ所



▲竹小舞を補修して荒壁を付け直す

み解き、瓦の葺き替えと外壁の塗り替えを同時並行で進める最短かつ最適な工程を組み上げた。

他工種との連携が生む「雨仕舞」の精度

総元請として特に注力したのは、屋根瓦職人との緊密な



▲職人としての誇りをもって作業に当たる



▲地域の風景を再構築していく

連携である。建物の寿命を左右する「雨仕舞(あまじまい)」を完璧にするためには、瓦と漆喰壁が接する箇所の納まりが鍵となる。既存土壁部分の補強には、栃木県の日本プラスター、ウルトラナノ浸透プライマーを採用した。

古い瓦を一度降ろし、下地の腐食箇所を徹底的に補修した上で、再利用可能な瓦と新しい瓦を選別し、一枚一枚丁寧に拭き直していく。この過程で、瓦職人と常に対話を重ねた。瓦のラインに合わせて左官が漆喰を盛り、水の流れ



▲再生した旧島崎酒造



▲漆喰で綺麗に仕上げられた蔵の切妻部分

をミリ単位でコントロールする。この「工種間の隙間を埋める作業」こそが、元請けとしての腕の見せ所である。阿久津左官店が全体を統括することで、工期やコストの効率

化だけでなく、建物全体の止水性能を極限まで高めることが可能となった。



▲地域の記憶も復元された

漆喰壁の再生

—100年前の技法を現代の責任で

外壁改修は、本プロジェクトの象徴的な工程である。私たちは総元請でありながら、自ら鍬を握る左官技能集団でもある。剥がれ落ちた古い漆喰を除去し、竹小舞を補修して荒壁を付け直す伝統的なプロセスは、Instagram「SAKUYAMA SAKAGURA」でも随時公開し、その「本物の手仕事」を可視化した。

仕上に用いた漆喰は、栃木県産村檜のしっくいを使用し、冬の栃木特有の激しい乾燥や「那須おろし」に耐えるよう、配合と施工タイミングを厳密に管理した。大面積をムラなく、かつ強固に仕上げるためには、職人たちの高い練度と、それを支える現場環境の整備が欠かせない。2026年2月、足場が撤去され、冬の陽光に輝く真っ白な外壁が姿を現したとき、それは一企業の施工実績を超え、佐久山の景観を再生したという確かな手応えとなった。

景観の再生と職人の誇り

今回の改修は、単なる一軒の建物の修理ではない。宿場町として栄えた時代を知る世代にとって、この蔵の再生は、自分たちの地域の歴史が肯定されるような喜びがある。工事中、通りを歩く地域の方々から「綺麗になったね」「昔の活気を思い出すよ」といった声をかけていただく機会も多かった。

阿久津左官店は、総元請として常に「現場は地域の鏡である」という意識を持って取り組んでいる。自ら現場を整え、美しく蘇っていく過程を地域に見せることで、左官と

いう仕事の価値を再認識してもらえると信じている。私たちは、単に物理的な壁を直しているのではなく、地域の風景を再構築し、人々の記憶を繋ぎ止める仕事をしているのだ。

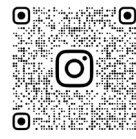
外装完成、そして未来への一歩

2026年1月末、屋根瓦と外壁の改修工事は無事に完了を迎える。現段階ではまだ内部の工事や将来的な利活用については構想の段階にあるが、この「外装の再生」が完了したことの意味は極めて大きい。

崩落の危機を脱し、雨風を凌げる「健全な器」としての姿を取り戻したことで、この建物は再び100年を生きる資格を得た。宿場町・佐久山の景観は守られ、地域の人々が足を止めて眺める誇り高いシンボルが復活したのである。

私たちはこれからも、左官という技術を通じて、地域の歴史に寄り添い、未来への礎を築いていきたい。旧島崎酒造の白い壁が、これから始まる新たな物語のキャンバスとなることを願い、本稿の締めくくりとしたい。

※現場の進捗は
こちらから
ご覧ください



@SAKUYAMA_SAKAGURA

プロフィール



左官リノベーション
Artisan plaster renovation

壁の匠 有限会社阿久津左官店

〒329-2745 栃木県那須塩原市三区町659-12

☎0287-37-0826 FAX0287-37-6580

URL <https://www.a-sakan.com>

E-mail kazushi@a-sakan.com

FB <https://www.facebook.com/kazushi.akutsu/>



職人ビレッジ

〒329-2745 栃木県那須塩原市三区町659-12

☎0287-37-0826 FAX0287-37-6580

URL <https://syokunin.pro>

E-mail kazushi@a-sakan.com

FB <https://www.facebook.com/syokunin.village>